

兵庫県のハムシ(1) (兵庫県甲虫相資料・331)

高橋 寿郎

昭和17年(1942年)7月24日、神戸市兵庫区烏原貯水池畔で初めてキベリハムシを3頭採集した。そのことからキベリハムシを含むハムシに興味を抱き、兵庫県にどのようなハムシがいるのか調べてやろうと取り組んで、本年(1996年)で54年になる。その間、第2次大戦に筆者は第一次学徒出陣として現役入隊(広島)し、中支戦線に参加、カザック共和国(ロシア)で抑留生活を終えて帰国。その後は会社勤務で時間的制約があり、十分な調査はできていない。

定年退職後は県自然保護指導員を拝命、同時に兵庫県環境科学技術センター(現ひょうご環境創造協会)で主として播磨地域を中心に環境調査(昆虫部門の調査)をさせて頂いた(1984~1993年に109回。他にも奥谷禎一博士の調査を50回以上手伝った)。しかしながら、兵庫県には広い未調査地がまだまだ多くある。とにかく手許に相当数のデータが集まっており、これを是非発表して残しておきたいと、まとめを始めるものである。長いので継続発表になるかと思うが、完結するまでどれくらいかかるものか見当もつかない。なんとか完了にこぎつけたと考えて発表させて頂く。

筆者のハムシ類調査にあたり、いろいろとご教示やご指導を頂いたり、貴重な論文を恵みいただいた諸先生方に厚く御礼申し上げたい。

戦前から台湾におられた中條道夫博士には同定、ご教示、論文別刷りの恵与を頂き、戦後は香川大学の研究室や自宅にお伺いしてご指導頂き、またキベリハムシの採集にご招待したり(大倉正文氏にも手伝って頂いた)いろいろな面でお世話になった。

戦後は中根猛彦博士、木元新作博士、大野正男教授、滝沢春雄博士(ABC順)にもいろいろとご指導やご教示を頂き、貴重な論文の別刷りを多数頂いている。さらには、ハムシのみならず環境調査を中心に、奥谷禎一博士にも格別のお世話になっている。以上の皆様には厚く御礼申し上げる。また、そのほかにもお世話になった方が多数いる。いちいちご芳名を記さないが、これらの方々に対しても心からお礼を申し上げさせて頂く。

凡例

1. 本報告のハムシ類の配列、学名、和名は原則として木元新作・滝沢春雄著『日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』(東海大学出版会、1994)によった。

2. 各種についての産地はできるだけ詳しくと思ったが、あまりにも膨大になるので次のように示した。

[] は文献からの記録で“兵庫県ハムシ研究史”(1995-1997)を見て頂きたい。() の中は筆者の採集品であるが、採集個体数の多いものは1例のみ示し、他はetc.としてある。

3. 筆者採集の標本は、1992年前半までの採集品は兵庫県立人と自然の博物館に保管されている。他は現在、筆者保管。

Family Chrysomelidae ハムシ科

Subfamily Megalopodinae カタピロハムシ亜科

Genus *Colobaspis* Fairmaire, 1894 カタピロハムシ属

1. *Colobaspis japonica* (Baly, 1873) カタピロハムシ
本種について筆者は、全国的視野に立つての分布を述べている(きべりはむし24(2):32-34, 1996)ので、ここでは解説を省略する。

産地: 神戸市山の街(1♂, 29-IV-1959)、丹生山(1♂, 5-V-1956)、多紀郡城南町(篠山町)竜造寺[山本, 1953]、城北村(篠山町)藤岡泉[奥谷, 1954]。

Subfamily Synetinae ホソハムシ亜科

Genus *Syneta* Eschscholtz, 1835 ホソハムシ属

2. *Syneta adamsi* Baly, 1877 カバノキハムシ

Baly (1877) によりTsushima, Japan, Vlodimir Bay, Manchuria産で記載された種である。かつて中條道夫博士によって詳しく図説されたことがある(1955, 1956, 1959)。食草はカンバ類、シデ類、ブナなどが知られている。分布は北海道、本州、四国、九州、対馬、サハリン、シベリア、中国などである。兵庫県下にも広く産し、個体数もかなり多い。

産地：川辺郡猪名川町槻並（2 exs., 4-V-1979）。神戸市北区谷上（14♂ 5 ♀, 7-V-1961）。多可郡加美町鳥羽（1 ex., 1-V-1975 etc.）。加美町三谷（1 ex., 24-V-1975）。朝来郡須留ヶ峯（1 ex., 9-VI-1975, M. Yuma leg.）。神崎郡大河内町砥ノ峯830m [木元・日浦, 1971]（2 exs., 7-V-1977 etc.）。揖保郡新宮町福原（1 ex., 15-V-1992）。相生市三濃山（2 exs., 3-V-1969, etc.）宍粟郡一宮町福地溪谷（2 exs., 3-VI-1975, M. Yuma leg.）。波賀町音水（3 exs., 21-V-1979）。多紀郡篠山町小金岳 [山本, 1953, 1958]。篠山町雨石山 [林ほか, 1995]。氷上郡柏原町（1♂ 1 ♀, 10-V-1953）。豊岡市三開山 [上田, 1996]。城崎郡三川山 [高橋, 1975]。養父郡関宮町氷ノ山（1 ex., VII-1955）[高橋, 1975；上田, 1996]。美方郡温泉町扇ノ山 [辻, 1963；辻・岸田, 1972；上田, 1996]。村岡町兎和野 [磯野, 1985]。

Subfamily Zeugophorinae モモブトハムシ亜科
Genus *Zeugophora* Kunz, 1818 モモブトハムシ属
Subgenus *Pedrillia* Westwood, 1864

3. *Zeugophora (Pedrillia) annulata* (Baly, 1873)
ワモンナガハムシ
Baly (1873) により *Pedrillia annulata* として記載された。使用標本はHab.-Japan. Collected by Mr. Moorとあり、わずかに1個体のみを所有すると記されている。

その後、中條道夫博士の研究発表があり、1937年に甲虫同好会の機関誌「日本の甲虫」が創刊され、その第1図版 (Fig.3) に美しいカラー図が発表された (p.3)。産地の中に伯耆大山が示されているので、この美しいハムシをどうしても兵庫県下で見つけたいものだと発奮したものである。

分布は日本全土、南千島、朝鮮半島、東シベリアとなっている。食草はマユミ、ニシキギ、クロヅルなどが知られている。

斑紋に変化があり、forma *biguttata* (Kraatz, 1899), forma *inannulata* Chûjô, 1959, forma *melanaria* Chûjô, 1959といった記載もある。

兵庫県下には広く分布していると考えられるが、記録はそれほど多くない。どちらかといえば山地性のようである。

産地：宝塚市香合新田 [水野, 1993]。神戸市六甲山（1 ex., 12-V-1986）。摩耶山（1 ex., 11-VI-1967, K. Mori leg.）。神崎郡笠形山 [森田, 1989]。宍粟郡波賀町音水（1 ex., 4-V-1972）。朝来郡和田山町宝山（1

ex., 16-VI-1994）。城崎郡日高町金山峠 [高橋, 1975]。養父郡関宮町氷ノ山（2 exs., 27-V-1956）[辻, 1972]。美方郡温泉町扇ノ山 [辻, 1963；辻・岸田, 1972]。浜坂町宇都野神社、城山、観音山 [磯野, 1985]。

4. *Zeugophora (Pedrillia) bicolor* (Kraatz, 1879)

ムナグロナガハムシ

Kraatz (1879) により、アムールから *Pedrillia bicolor* として記載された。日本からは Jacoby (1885) によって“Wadatoge, Fukushima”産で *Pedrillia nigricollis* と記載されたものがこの種にあたる。分布は日本全土、朝鮮半島、シベリアで、食草はマユミとある。

兵庫県下からはほとんど記録が知られていない。

産地：川西市山原 [仲田, 1970, 1978]。黒川 [仲田, 1982]。

Subfamily Donaciinae ネクイハムシ亜科
Genus *Macrolea* Samouelle, 1819 キイロネクイハムシ属

5. *Macrolea mutica japona* (Jacoby, 1885)

キイロネクイハムシ

G. Lewisが2度目に来日した1880年4月に、神奈川県横浜市の豊頭寺の池の中から採集した1個体に基づいて、Jacoby (1885) が *Haemonia japona* の学名で記載した種である。

その後、湯浅啓温博士 (1926) がカエルの腹から出てきたのを報告したのが、記載以後初めての報告である。それから千葉県、神奈川県、山梨県、大阪府東大阪市、兵庫県宝塚市、西宮市、福岡県福岡市香椎、沖縄県と記録が出たが、宝塚市を除けば1頭もしくは化石からの上翅など部分的な出現で、現在真に日本に分布しているのかどうか大変興味のあるハムシである。このあたりのことは、久保田正秀氏 (1987) が詳しく解説している。また「アトラス日本のネクイハムシ」(1985) には、このハムシの形態・生態・分布などが詳しく説明されている。

兵庫県宝塚市では1ヶ所の池（ひょうたん池）で、1949～1950年に30頭くらい採集されているようであるが、それ以降は全く記録が見られない（筆者も故後藤光男氏にこの池に案内してもらったことはあるが、採集はできなかった。池は現存しているようであるが、当時と状況が変化しているらしいことを故大倉正文氏から1990年頃に直接お聞きしたことがある）。

西宮市で1940年頃、黒佐和義博士によって採集された記録があるが、詳しいことはわからない。

とにかく全国的に見ても最近は全く記録が現れないハムシであり、興味のある種である。

なお、木元博士 (1986) は、中央アジアやヨーロッパなどに分布している *Macroplea mutica* (Fabricius, 1792) の亜種になると発表している。

産地：宝塚市 [柴内・中畔, 1950; 後藤, 1955; Kimoto, 1964; 久保田, 1987; 水野, 1993]. 西宮市 [久保田, 1987].

Genus *Donacia* Fabricius, 1775 ミズクサハムシ亜科
Subgenus *Cyphogaster* Goecke, 1934

6. *Donacia* (*Cyphogaster*) *lenzi* Schoenfeldt, 1888

ネクイハムシ

本種はLenz (Lenz Tuiscon は1874~1880年, 神戸に在留したドイツ商人で, 神戸で甲虫の採集をした。この種小名も氏に献名されたもの) がKobeで採集した標本に基づき, Schoenfeldt (1888) が命名した。Lewis (1893) は, Baly (1873) が長崎・兵庫産で *Donacia aeraria* Balyと記載した種は, 中国産 *D. aeraria* と間違えたもので, この両者は明らかに異なり, Schoenfeldt が記載したKobe産がこの種にあたるとした。

そして, 神戸や京都, 大阪の池にも極めて多数見ることができ, water-lilyが食草であると記している。

分布は広く, 日本全土のみならず朝鮮半島, 中国, 台湾, フィリピンが知られている。

兵庫県下でも広く分布しているようで, 特に播磨地域では非常に多く見ることができる。

食草はジュンサイ, ヒルムシロが知られている。

産地：川辺郡猪名川町上原, 京尾谷池alt. 110m [野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985]. 宝塚市大原野 [細井, 1987], 波豆, 下佐曾利 [水野, 1993; 森, 1991]. 西宮市甲東園 [野尻湖昆虫グループ, 1985]. 芦屋市奥山町イモリ谷, 奥池貯水池 [野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985]. Hiogo [Schoenfeldt, 1888; Jacobson, 1892; Jacoby et Clavareau, 1904; Clavareau, 1913; Goecke, 1934, 1935]. Kobe [Lewis, 1893; Baly, 1873; Schoenfeldt, 1887]. 神戸市北区谷上 (2 ♀, 1-VI-1986 etc.), 八多町屏風 (7 exs., 10-VI-1993). 三田市大阪峠下の池alt. 330m [野尻湖昆虫グループ, 1985]. 三木市口吉川町笹原 (2 ♀, 11-IX-1986). 美囊郡吉川町市野瀬 (8 ♂10 ♀, 2-VIII-1985), 吉川町奥山 (14 ♂16 ♀, 5-VI-1986 etc.). 加東郡杜町畑 [八木, 1991]. 小野市大上 (5 ♂4 ♀, 8-VII-1987 etc.). 加西市青野ヶ原逆池alt. 85m., 平池alt. 85m [野尻湖昆虫グループ,

1981, 1985].

7. *Donacia* (*Cyphogaster*) *provostii* Fairmaire, 1885

イネネクイハムシ

本種は北京産でFairmaire (1885) が記載した種である。中條 (1934) は“従来本種は *Donacia aeraria*, *Donacia lenzi* と混同して取り扱われていたが, 触角や腿節, 体色その他で明らかに違った種である”として本種を解説した。さらに“本種は本州, 九州では普通種であり, 幼虫はイネの根を食害することがよく知られている”とある。また, 本種は伊丹市原田処理場遺跡 (弥生時代) から上翅が1点発見され (宮武, 1994), 新潟県柏崎市鯨波のナウマンゾウ発掘で約3万年前の旧石器時代の地層からも産出している。縄文時代以降, 遺体として各地の遺跡および現在の水田の土層まで非常に多く産出している (桂, 1994) ということは, 本種はかなり古い時代からいたハムシということになる。戦前はイネの害虫として知られていた種で, その被害は相当大きかったようである。最近では農薬の影響や湿田から乾田への土地改良が進み, 水田ではほとんど見られないようになり, 平地では水田近辺のため池や用水路のヒルムシロやヒツジグサ, ハスなどの浮葉植物上に多く見られ, 山地では池のジュンサイ, コウホネなどの浮葉植物を食べて生活して, 必ず水面に浮葉した植物の葉裏に産卵する。幼虫は孵化後泥の中に潜り, そこにあるいろいろな植物の根を食害することから“ネクイハムシ”と名付けられた。必ずしもイネに依存した生活史をもったものではないといわれている。ネクイハムシに比べて, 湿地の上が林などで覆われない, より開けたところを好んで生活していて平地に多く, さらにため池など, より人工的な環境にも多く見られるといわれている。兵庫県下で見た場合, ネクイハムシは多く見られるのにイネネクイハムシの方が少なく, 水田の消失や開発による減少が急速に進んでいるのかもしれない。

産地：津名郡北淡町育波 [Ikuwa Awaji] [野尻湖昆虫グループ, 1985] (この標本は宝塚昆虫館に保管されていたとき筆者も検したが, かなり悪い状態の標本であったと記憶している。現在, 大阪市立自然史博物館に保管されていると思われる)。伊丹市 [河上, 1984], 原田遺跡 [宮武, 1994]. Hiogo [Chûjô, 1934 (1 sp. 7-VI-1881, G. Lewis Col., Goecke, 1934]. 明石 [野尻湖昆虫グループ, 1985]. 小野市大上 (1 ♂, 8-VII-1987). 豊岡市寿町 [高橋, 1975]. 美方郡美方町貫田島地池alt. 560m, 村岡町粗岡, 粗大池alt. 490m, 温泉町春來 (用

水路) alt. 405m [野尻湖昆虫グループ, 1985].

8. *Donacia (Donacia) japana* Chûjô et Goecke, 1956

キンイロネクイハムシ

本種は中條道夫博士とハンス＝ゲッケ (H. Goecke) 氏が、京都の深泥池産 (Holotype, Allotype) はそれぞれ 1 ♂ 1 ♀ で岸井尚博士採集, Paratypes は 58 exs. + 4 exs. で中根猛彦博士採集) で記載された種である (1956).

原記載にはヨーロッパとシベリアに分布している *Donacia (Donacia) aquatica* (Linnaeus) に大変よく似ており、中條博士が 1934 年に京都から *Donacia aquatica* (nec Linnaeus) として報告したものと、1955 年に後藤光男氏が *Donacia* sp. として原色で図示したものは、共にこの種にあたとされている。

日本では本州の北端部から北九州まで知られているが、四国からは未知で、西南日本からはほとんど知られていない。国外では朝鮮半島、旧満州東部にも分布している。

成虫の食害植物はミクリ、ヤマトミクリ、ヒメミクリ、カンガレイなどで、訪花植物はミクリ、ヤマトミクリ、カサスゲ、ミヤマシラスゲなど。

幼虫の食草はミクリ属の 1 種、産卵植物はヤマトミクリ、ヒメミクリ、カサスゲ、ミヤマシラスゲなどが知られている。

原産地の深泥池には大変多くいたようで、記載当時京都におられた故石田裕氏が採集された標本を、多数頂いた記憶がある。

兵庫県下でも広く分布していると思われるが、記録としては多くない。

産地：宝塚市大原野北方の池 [野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985, 細井, 1987], 下佐曾利 (2 ♂ 2 ♀, 27-V-1991, K. Mori leg.) [森, 1991], 大原野, 下佐曾利 [水野, 1993], 三木市大村 [1 ex., 2-V-1987, Y. Nagahata leg.], 美濃郡吉川町 (1 ♀, 21-V-1992), 加東郡社町畑 [八木, 1991], 養父郡関宮町氷ノ山山麓大久保 alt. 700m (8 ♂ 4 ♀, 24-VII-1958)。

9. *Donacia (Donacia) katurai* Kimoto, 1981

カツラネクイハムシ

本種は、芦屋市の奥池 (桂孝次郎氏採集), イモリ谷 (春沢圭太郎氏採集) で採集した標本に基づいて、木元 (1981) により記載された。

原記載には、*Donacia nitidior* (Nakane, 1963) ツヤネクイハムシに似ていて、寄主植物はヤチカワズスゲとある。その後、野尻湖昆虫グループの調査で、成虫の

食害植物はタチスゲ、ヤチカワズスゲ、サヤヌカグサの 1 種、成虫の訪花植物としてヤチカワズスゲ、アゼスゲ、イグサが報告されている。

分布は原記載では本州のみであったが、現在のところ日本固有種で西限は大分県、東限は愛知県である。近畿地方では兵庫県以外の産地が知られていない。

兵庫県では阪神～播磨地方に広く分布しているように思われる。

産地：芦屋市奥池, イモリ谷 [Kimoto, 1981; 野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985], 神戸市北区芦谷川湿地 alt. 400m (8 ♂ 2 ♀, 5-VI-1982 etc.), 北区山田町金剛童子山鰻ノ手池北側湿地 alt. 450m (2 ♂ 4 ♀, 1-VI-1986 etc.) [野尻湖昆虫グループ, 1985], 加東郡社町畑 [八木, 1991], 小野市青野ヶ原逆池 alt. 85m, 平池 alt. 85m, 皿池 alt. 85m [野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985; 衣笠, 1987], 神崎郡大河内町砥ノ峰高原 alt. 830m [野尻湖昆虫グループ, 1985], 赤穂郡上郡町富満 [八木, 1991], 養父郡大屋町加保坂 [足立, 1985]。

10. *Donacia (Donacia) nitidior* (Nakane, 1963)

ツヤネクイハムシ

中根 (1963) が、京都大悲山で採集した標本で記載した。カツラネクイハムシとは分布域が似ているが、同一地点での混雑例は少なく、異所的分布傾向がある。兵庫県を除く近畿地方では本種のみが知られ、福井県にも分布する。日本固有種である。

訪花植物はカサスゲ、アゼスゲ、ゴウソ、オニスゲが知られている。アゼスゲ葉上で交尾がみられたが、葉の食害例をみていないとある。

丘陵地、山地の林をともなう小湿地や廃田に多い。生息環境は、ハッチョウトンボのそれによく似ているとのこと。

兵庫県下の産地は 1 ヶ所しか知られていないが、おそらく西播磨地方に分布していると思われる。

産地：宍粟郡千種町木地山峰越峠の湿地 alt. 1020m [野尻湖昆虫グループ, 1985]。

Genus *Plateumaris* C. G. Thomson, 1866

オオミズクサハムシ属

11. *Plateumaris constricticollis chugokuensis* Tominaga et Katsura, 1984 チュウゴクオオミズクサハムシ

原名亜種 *Plateumaris constricticollis* (Jacoby, 1885) エゾオオミズクサハムシは、Jacoby により Lake at Junsai 産で *Donacia constricticollis* Jacoby と記載された。主に

東北地方（原記載の北海道はよくわからない産地である）に分布しているようである。富永・桂（1984）は、富山県、兵庫県・岡山県に産するものをそれぞれ亜種として記載した。このチュウゴクオオネクイハムシは、岡山県苫田郡上斎原村新古屋、岡山県立森林公園と兵庫県神崎郡大河内町砥ノ峯湿原で採集されたものに基づいて記載されたもので、兵庫県では現在砥ノ峯と養父郡大屋町加保坂が産地として知られている。

野尻湖昆虫グループ（1985）によれば、“チュウゴクオオミズクサハムシは、ハンノキ類のみられる湿原のスゲ群落に多く、このスゲ属の他に、ミヤマシラスゲやイグサ属の1種を訪花し花粉を食する。ただし花期を過ぎたスゲ群落にも多数みられ、交尾して食害している”とある。

産地：神崎郡大河内町砥ノ峯湿原alt.830m [富永・桂, 1984; 野尻湖昆虫グループ, 1985; 衣笠, 1987; 成田, 1989; 桂, 1994]。養父郡大屋町加保坂 [八木, 1991]。

12. *Plateumaris sericea* (Linnaeus, 1768) スゲハムシ

本種はヨーロッパ産で記載され、ヨーロッパのみならず中央アジア、シベリア、モンゴル、中国、朝鮮半島、サハリン、千島と旧北区に広く分布し、日本でも北海道、本州、九州に分布している。

日本では西進南下するにしたがい山地性になる。九州では福岡県と大分県で知られているが、他にも分布しているであろう。四国からの記録は現在知られていない。

兵庫県下でも中央部から北の地域に分布している（淡路島の記録があるが、若干疑問がある）。

食草としてはガマ、スゲなどがあげられている。

中根（1963）が上高地産で記載した*Plateumaris nipponensis* Nakane, 1963は、本種のシノニムとなる。

産地：津名郡北淡町育波（Ikuwa, Awaji, Hyogo）[野尻湖昆虫グループ, 1985]。宍粟郡波賀町若杉峠の湿地alt. 940~950m, 千種町木地山alt.850m, 同峰越峠の湿地alt.1020m [野尻湖昆虫グループ, 1985]。千種町鍋ヶ谷の上流の一湿地 [衣笠, 1989]。城崎郡日高町阿瀬溪谷 [上田, 1996]。養父郡関宮町氷ノ山山麓大久保alt.700m (13♂8♀, 24-VII-1955), 関宮町鉢伏高原 [八木, 1991; 上田, 1996]。美方郡村岡町鉢北高原 [八木, 1991; 上田, 1996]。村岡町兎野高原, 銚子谷 [上田, 1996]。

Subfamily Criocerinae クビボソハムシ亜科

Genus *Oulema* Des Gozis, 1886 イネクビボソハムシ属

大洋州を除く世界各地に広く分布し、日本には5種を産する。兵庫県下からは4種が知られているが、1種を除けば珍しい種ばかりのように思われる。

13. *Oulema atosuturalis* (Pic, 1923)

セスジクビボソハムシ

この種はBaly（1873）によって長崎を産地に*Lema downsi*として記録され、これが日本で最初の記録になるかと思う。桑山覚博士もこの学名で九州、インドを分布地として記録し、1951年には、台湾、琉球を産地としている（Jacoby（1908）は*Lema downsi*としてBengal; Bombay; Malader Coastを記録している）。

ところで、この学名のハムシはPic（1921）がアンナンから記載した*Lema atosuturalis* Picと同一種であるとされた（Chûjô et Kimoto, 1960; Kimoto, 1961, 1964. もっともChûjô et Kimotoでは*Hapsodolema*属の種とされている）。そして現在では、*Oulema atosuturalis* (Pic)が用いられている。

黄褐色、上翅会合部は黒色、触角は暗褐色、脚は黄褐色、前胸背板の基部は明瞭な点刻をまばらに装う。体長3.0~3.5mm。食草はメヒシバなどである。分布は本州、四国、沖ノ島、九州、対馬、屋久島、沖縄本島、石垣島、西表島、与那国島、中国南部、台湾、インドシナと広く、どちらかといえば南の方に広く産する種のようなのである。

兵庫県下では長い間、筆者の記録した氷ノ山の産が知られていただけであったが、最近小野市、加古川市からの記録が見られた。したがって、県の南部海岸沿いにも分布しているようである。

産地：小野市、加古川市 [リバーフロント, 1994]。養父郡関宮町氷ノ山（2 exs., 24-VII-1955）。

14. *Oulema dilutipes* (Fairmaire, 1885)

アワクビボソハムシ

本種の原産地は、中国北京である（Red. d' Ent. 7, p.149, 1885）。日本からの初記録は、中條道夫・木元新作両博士によってされた（1960, 属名は*Hapsidolema*。青森、群馬、岐阜、兵庫、高知、福岡県のもの）。食草はアワである。

分布は本州、四国、九州、朝鮮半島、中国である。

兵庫県下の記録について、筆者は詳しく発表したことがある（1990）。県下の記録は、それ以後聞かない。産地：神戸市西区伊川谷町前開（1 ex., 28-IX-1988）。氷上郡遠阪村（青垣町）[山本, 1953, 1958]。柏原町 [中條・木元, 1960]。美方郡浜坂町味原 [磯野, 1985]。

15. *Oulema oryzae* (Kuwayama, 1931)

イネクビボソハムシ

原記載は桑山覚博士(1931)により“稲の大害虫イネドロムシ(泥負虫)は精査の結果新種と認め、ここに *Lema oryzae* と命名せり”として記載された。タイプなどの指定は全くない。この種については、それ以後桑山博士による詳しい生態をも含めた研究結果の発表がある(1932, 1935)。

1893年, Lewisは *Lema melanopa* Linnaeusの学名で新潟県Shiwojiritogeで1881年7月に5頭得たと記録しているが、これは本種のことである。イネの害虫として、その生態についても多くの文献がある(1959)。

すでに本種の分布について桑山博士は、兵庫県下では但馬地方にのみ分布するとしている(1932, 第二報, p.86)。現在でも記録のあるのは但馬地方が主体である(氷上郡の黒井, 幸世は厳密には丹波地方になる)。県の南の方にも分布しているのではないかと推測している。わりと美しいハムシである。

食草は、イネ、カモガヤ、マコモなど。イネの害虫として知られ、別名イネドロオイムシともいわれている。分布は意外と広く、北海道、本州、伊豆大島、佐渡、四国、九州、対馬、与那国島、朝鮮半島、中国、台湾とある。

産地：氷上郡幸世, 春日町黒井 [山本, 1958]。出石郡出石町福住 [高橋, 1963]。豊岡市上陰 [高橋, 1975]。城崎郡日高町上郷 [上田, 1996]。養父郡関宮町氷ノ山 (1 ex., 2-VIII-1953 etc.), 関宮町大久保 [木元・日浦, 1971]。美方郡浜坂町城山, 観音山, 清富, 温泉町霧ヶ滝 [磯野, 1985]。

16. *Oulema tristis* (Herbest, 1786)

キアシクビボソハムシ

本種はヨーロッパ産で, *Criocenis tristis* として記載された(1786, in Fnessly, Arch. Ins. 7, p.165)。

日本からはBalyにより1873年に長崎, 対馬, 東南シベリア産の標本で *Lema flavipes* Suffrとして記録されたのが最初である。

桑山覚博士は *Lema tristis* として、産地として美濃地方, 東京, 長崎, 対馬 (after Baly) を挙げ、日本では珍しい種であるとして記録した。

Gressitt・木元(1961)は, *Oulema*の種として扱った。したがって、現在は表記の学名で扱われている。

大野正男教授は、東京都小仏峠産の標本で、脚は赤みがかった褐色であるが、脛節、ふ節は全く青黒色であるという点で、亜種 *kuwayamai* Ohno を記載してい

る(Ent. Rev. Japan, Vol.14, No.2: 43-44, 1962)。

木元博士による新しい図説(1994)には、この亜種についての言及がない(木元博士の図説における本種の分布はいささか変である。p.104, 271)。筆者はこの種の標本を所有していないので、よくわからない。分布は本州, 九州, 対馬, 朝鮮半島, シベリア, モンゴル, ヨーロッパとなっている。

兵庫県下からは後藤光男氏が *Lema tristis* Herbestとして、宝塚市の池中の枯れたアシの茎中より多数採集したことがある(IV-1951)と、カラーで図説しているのが唯一の記録である。この宝塚の池は後藤氏に案内して頂いたことがあるが、その時はジュウクホシテントウを採集できたがクビボソハムシの仲間は採集できなかった。この池は現在、恐らくなくなっているのではないだろうか。キイロネクイハムシがいた池とは違っていたように思う(キイロネクイハムシのいた池は残っているようである)。現在どのようになっているのか、調べる必要のあるハムシである。

産地：宝塚市 [後藤, 1955; 水野, 1993]。

Genus *Lema* Fabricius, 1798 クビボソハムシ属

この属の種は世界各地に分布し、日本には12種が産する。兵庫県からは9種が記録されている。

Subgenus *Petauristes* Latreille, 1829

17. *Lema (Petauristes) adamsii* Baly, 1865

キベリクビボソハムシ

本種の原産地は中国である(Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 3, 16: 155, 1865)。日本からはBalyが、1877年に長崎の海拔2000フィートの場所において採集したのが最初の記録である。次にJacobyも日本から記録している(1885)。桑山覚博士は1932年、それまでの記録をまとめて発表している。

本種は体背面の斑紋変化があるようである。兵庫県下からはそれほど産地が知られていない。食草がヤマノイモであるから、もっといてもよいと思われる。

分布は本州, 八丈島, 三宅島, 隠岐, 四国, 九州, 対馬, 五島, 平戸島, 甑島, 屋久島, 朝鮮半島, 中国と広い。

産地：神崎郡大河内町川上 [木元・日浦, 1971]。竜野市神岡町 (1 ex., 21-VI-1972)。氷上郡神楽村(青垣町)稲土 [山本, 1953, 1958]。出石郡出石町材木 [高橋, 1963]。

18. *Lema (Petaristes) honorata* Baly, 1873

ヤマノイモハムシ

Balyにより1873年、Nagasaki産で新種記載された種である。桑山 (1932) は多くの産地を示し (中に松村松年博士が7月に高砂で採集した記録も含まれる)、大変普通種であると紹介した。

兵庫県下でも広く分布しているようで、普通に得られる。

和名にあるように、ヤマノイモが食草である。

産地：三原郡論鶴羽山 [大野, 1969; 堀田, 1978], 南淡町沼島 [楠井, 1992], 洲本市先山 [堀田, 1978], 川西市横地 [仲田, 1978, 1982], 宝塚市玉瀬, 安倉北 [水野, 1993], 神戸市摩耶山 (2 exs., 30-IV-1981 etc.), 鳥原 (1 ex., 5-VI-1966 etc.), 藍那 (1 ex., 8-VI-1978 etc.), 八多町屏風 (2 exs., 22-VII-1993), 押部谷町木見 (1 ex., 16-VII-1980), 伊川谷町 (1 ex., 6-VII-1988), 高砂市 [桑山, 1932], 小野市来住町 (1 ex., 26-VI-1991), 飾磨郡夢前町雪彦山 (4 exs., 14-VII-1957), 夢前町我孫子 (2 exs., 5-VIII-1979), 家島町家島 [上田, 1981], 多可郡加美町鳥羽 (14 exs., 5-VII-1955 etc.), 加美町三谷 (1 ex., 8-VI-1975 etc.), 神崎郡大河内町川上 (1 ex., 15-VII-1977), 竜野市神岡町 (3 exs., 13-VI-1988), 揖保郡新宮町福原 (1 ex., 15-VII-1992), 宍粟郡一宮町福知溪谷 (1 ex., 20-VI-1976), 波賀町音水 (2 exs., 20-VII-1959 etc.), 氷上郡 [山本, 1953, 1958], 山南町 (1 ex., 5-VII-1990 etc.), 朝来郡和田山町玉置 [上田, 1996], 出石郡但東町佐々木 [高橋, 1963], 城崎郡日高町金山 [高橋, 1975], 香住町土生, 日高町上郷 [上田, 1996], 養父郡関宮町氷ノ山, 八鹿町妙見山 [上田, 1996], 美方郡浜坂町味原, 宇都野神社, 城山 [磯野, 1985], 温泉町扇ノ山, 村岡町祖岡 [上田, 1996]。

Subgenus *Microlema* Pic, 1928

19. *Lema (Microlema) decempunctata* Gebler, 1830

トホシクビボソハムシ

Baly (1873) は *Lema 10-punctata* Gebler, Hab.-Japan. Common on the coasts, Where it is found on the tea plant; also Northern China and Siberia と記録した。これが本種を日本から初めて記録したものとなる。

Weise (1889) は日本産として var. *japonica* を記載した。

桑山覚博士 (1932) はトホシクビボソハムシとして *Lema decempunctata japonica* Weise を (次の兵庫県産標本を含む。Takasago, Prov. Harima "May, 1903, leg. S. Matsumura", Hyogo, Prov. Settsu "April 14, 1914, leg. S.

Hirayama"), 同時にムモンクビボソハムシとして *Lema decempunctata japonica* Weise var. *brunneipennis* Kuwayama, 1932 を記載した (木元新作博士 (1994) によると, この変種はHyogo, Tokyo, Kyoto産で記載となっているが, Kameoka, Prov. Tamba は京都府であり, 京都・東京産で記載されていることになる)。どちらにしても, 上翅の黒紋は消失する個体もあるが, 現在は表記の学名の種として取り扱われている。

クコを食するハムシとしてよく知られており, クコハムシの名で呼ばれたことがある。

分布は広く, 本州, 四国, 九州, 朝鮮半島, 中国北部, シベリア東部である。

兵庫県下にも広く分布しており, 場所によっては多く産する。

産地：三原郡南淡町阿万西町 [久松, 1974], 川西市大和 [仲田, 1980, 1982], 川辺郡猪名川町 [リバーフロント, 1994], 伊丹市 [河上, 1984], 宝塚市安倉北 [水野, 1990], Hyogo Prov. Settsu [桑山, 1932], 神戸市六甲山 (3 exs., 4-V-1958), 鳥原 (3 exs., 29-IV-1970), 高取山 [3-V-1960, Torii leg.], 多井畑 (3 exs., 23-V-1991), 三木市末広 [9 exs., 11-VI-1988, M. Nishida leg. etc.], 高砂市 [V-1903, S. Matsumura leg., 桑山, 1932], 氷上郡 [山本, 1958], 美方郡浜坂町護国神社 [磯野, 1985]。

Subgenus *Lema* Fabricius, 1798

20. *Lema (Lema) cirscicola* Chûjô, 1959

ルリクビボソハムシ

本種はBalyにより1873年, 長崎産で *Lema puncticollis* Baly として記録された種であり, 桑山覚博士も1932年に同じ学名で多くの産地をかかげて記録した。

1959年, 中條道夫博士は多くの日本各地産標本を用いて *Lema cirscicola* Chûjô と新種記載した。Baly の *L. Puncticollis*, 桑山博士の同種もこの新種に含まれる。

本種は現在のところ, 日本特産種のようなのである。

兵庫県にも広く分布している。食草はアザミ類が知られている。

産地：川辺郡猪名川町杉生新田 [仲田, 1979, 1982], 神戸市六甲山 (2 exs., 18-VI-1967), 多可郡加美町鳥羽 (1 ex., 29-IV-1972), 神崎郡大河内町川上 (3 exs., 14-V-1977), 飾磨郡夢前町我孫子 (1 ex., 5-VI-1979), 揖保郡新宮町福原 (1 ex., 22-VI-1992 etc.), 相生市三濃山 (1 ex., 7-V-1972 etc.), 宍粟郡波賀町音水 (1 ex., 21-VII-1955 etc.), 波賀町赤西 (1 ex., 21-V-1979

etc.), 波賀町坂ノ谷 (3 exs., 9-V-1973). 氷上郡 [山本, 1953]. 出石郡出石町荒木 [高橋, 1975]. 朝来郡和田山町糸井溪谷 [上田, 1996]. 豊岡市三開山 [上田, 1996]. 城崎郡竹野町三原 [高橋, 1975]. 日高町万場, 阿瀬溪谷, 三川山 [上田, 1996]. 養父郡関宮町大久保 [木元・日浦, 1971], 関宮町氷ノ山 (1 ex., 25-VII-1955 etc.), 関宮町鉢伏山 [木元・日浦, 1971], 八鹿町妙見山 [上田, 1996]. 美方郡浜坂町味原, 城山, 観音山, 久斗山 [磯野, 1985], 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 高橋, 1975].

21. *Lema (Lema) concinnipennis* Baly, 1865

キバラリクビボソハムシ

Baly (1865) により, 北中国産で記載されたものである。日本からは同じく Baly (1973) が長崎, 兵庫 (神戸) 産を記録したのが初めてである。

桑山覚博士 (1932) は var. *ventralis* Kuwayama を記載しているが, 現在は認められていない。

ルリクビボソハムシによく似た色彩をしているが, 腹部末端3節は黄褐色, まれに全体黒色の個体もある。食草はツユクサで, この種の分布の方が広い。兵庫県下でもこの属の中では一番個体数が多い。

産地: 津名郡淡路町岩屋 (1 ex., 29-IV-1961), 愛宕山 [大野, 1969]. 宝塚市上佐曾利 [水野, 1993]. Hiogo [Baly, 1873; Kuwayama, 1932]. 神戸 [和田, 1950], 神戸市六甲山 (1 ex., 29-V-1967), 神戸市再度山 (1 ex., 20-VI-1979), 藍那 (1 ex., 22-V-1978), 鳥原 (2 exs., 16-V-1971 etc.), 八多町屏風 (1 ex., 6-V-1993). 明石市明石公園 (1 ex., 15-VI-1975). 三木市細川中 (2 exs., 30-V-1985), 大村 [西田, 1989]. 加東郡東条町森 (1 ex., 4-VII-1984). 飾磨郡家島町家島 [上田, 1981]. 氷上郡柏原町 [山本, 1953, 1958]. 出石郡出石町藤坂 [高橋, 1963]. 養父郡関宮町氷ノ山 (1 ex., 27-VII-1956).

22. *Lema (Lema) coronata* Baly, 1873

トゲアシクビボソハムシ

本種について, 筆者はかなり詳しく解説したことがある (きべりはむし Vol. 19, No. 2, p.38-39, 1990). 最近, 森和夫氏は北摂周辺の本種の生態を調べ, イボクサが本種の主要な食草であり (ツユクサも自然状態で食草としている), 水田などの縁にかなりの個体数を見ることができたことを発表し (きべりはむし Vol. 24, No. 1, p.19-23, 1996), 今まで県下では珍しいハムシと考えられていたが, 場所, 時期により多く産

することがわかった。

産地: 津名郡愛宕山 [大野, 1969]. 宝塚市 [後藤, 1955; 水野, 1993]. 川西市笹部, 一庫 [森, 1996], 笹部 (3♂2♀, 28-IV-1996, Mori leg.). 宝塚市長谷 (西谷地区) [森, 1996]. 加東郡東条町森 (1 ex., 18-V-1984, Y.Hachitani leg.). 氷上郡 [山本, 1958]. 朝来郡和田山町枚田岡 [上田, 1996]. 出石郡出石町水上 [高橋, 1963], 城崎郡香住町佐津 [上田, 1996].

23. *Lema (Lema) delicatula* Baly, 1873

キオビクビボソハムシ

本種は Baly によって Nagasaki 産で新種記載された。

桑山覚 (1932) は日本産の例を示し, この美しい種は稀であるが西部日本に広く分布していると述べている。1937年, 「日本の甲虫」の創刊号のトップ図版に美しいカラー写真が神谷一男博士により示され, 当時なんとか採集したいものだと思ったものである。その後, 筆者のフィールドとしている神戸市鳥原貯水池畔にはわりといることがわかった。兵庫県全般から見るとそれほど産地は多く知られていない。産地が他にもまだあると考えられる。食草はツユクサとなっている。産地: 津名郡愛宕山 [大野, 1969]. 宝塚市玉瀬 [水野, 1993]. Hiogo [Baly, 1874]. 神戸 [岩本, 1937; 和田, 1950], 神戸市鳥原 (1 ex., 4-VII-1971 etc.), 山の街 (3 exs., 30-V-1953). 氷上郡柏原町 [山本, 1953, 1958]. 出石郡出石町伊豆 [高橋, 1965]. 美方郡浜坂町味原, 観音山 [磯野, 1985].

24. *Lema (Lema) dilecta* Baly, 1873

スゲクビボソハムシ

本種は Baly により “Hiogo, Japan; a single specimen” として記載された種であり, 日本産 *Lema* 属中最小種で青藍色の美しいハムシである。兵庫県の記録は筆者 (1986) が詳しく発表した, あまり目につかないのなかなか採集し難いハムシであると考えていた。1996年, 森和夫氏は北摂地方を中心に本種の生態を調べ, 本種がイボクサを主要な食草として生活していることがわかり (従来食草としてスゲが知られていた), 場所によっては水田の縁などでイボクサを調べるとかなり見ることができるとの報告を行った。産地: 川西市笹部, 一庫 [森, 1996]. 宝塚市 [後藤, 1955; Kimoto, 1964; 水野, 1993]. Hiogo [Baly, 1873; Kuwayama, 1932]. 神戸市北区山田町金剛童子山麓鰻ノ手池畔 (1 ex., 1-VI-1986).

25. *Lema (Lema) diversa* Baly, 1873

アカクビボソハムシ

頭部は全体黒青色、前胸は赤褐色。体腹面は赤褐色の腹部側方部を除き黒色。触角、肢は黒色。上翅の色彩・斑紋には変異が多く、基本型以外にアカヘリ型 *forma akaheri* Yuasa, 1939, クロスジ型 *forma doii* Kuwayama, アトモン型 *forma morii* Yuasa, ツマキ型 *forma lewisii* Baly などに分けられている。分ける必要がないといえればそれまでであるが、かなりはっきりと分けられるものが存在することは事実であり、そのような型ごとに産地を見てみたい。

本種については古くから貴重な検討論文が多くある。

成虫、幼虫ともにツククサで生活しており、兵庫県下でも *Lema* 属中では最も多くいる種である。基本型、ツマキ型が特に多く産する。

Typical form (基本型)

産地：津名郡愛宕山 [大野, 1969]。川辺郡猪名川町杉生新田 [仲田, 1982]。伊丹市 [河上, 1984]。西宮市盤滝 (1 ex., 10-IX-1987), 宝塚市売布が丘, 切畑字長尾山 [水野, 1993]。神戸 [黒佐, 1955]。神戸市御影 [後藤, 1955]。鳥原 (1 ex., 26-VII-1938 etc.), 藍那 (1 ex., 21-VI-1993), 八多町屏風 (1 ex., 12-V-1973), 飾磨郡家島町家島 (1 ex., 26-V-1978), [上田, 1981]。揖保郡新宮町福原 (1 ex., 10-VI-1992)。氷上郡 [山本, 1958]。多紀郡篠山町雨石山 [林ほか, 1995]。朝来郡和田山町枚田岡 [上田, 1996]。城崎郡日高町上ノ郷, 香住町佐津 [上田, 1996]。美方郡温泉町扇ノ山 [辻・岸田, 1972]。浜坂町宇都野神社, 城山, 清富 [磯野, 1985]。

forma akaheri Yuasa, 1939 (アカヘリ型)

産地：神戸市鳥原 (1 ex., 8-VIII-1971 etc.)。明石市明石公園 (1 ex., 26-VI-1976)。多可郡加美町三谷 (1 ex., 2-VIII-1976)。

forma doii Kuwayama, 1939 (クロスジ型)

産地：神戸市六甲山 [Heinzz, 1943; 和田, 1950]。鳥原 (1 ex., 4-VII-1939 etc.)

forma morii Yuasa, 1939 (アトモン型)

産地：神戸 [和田, 1939]。神戸市鳥原 (2 exs., 27-VI-1976)。

forma lewisii Baly, 1873 (ツマキ型)

産地：津名郡愛宕山 [大野, 1969]。川辺郡猪名川町槻並 (1 ex., 2-VII-1978)。西宮市船坂 (1 ex., 20-V-1987 etc.)。盤滝 (2 exs., 10-IX-1987)。神戸市鳥原 (1 ex., 23-V-1971 etc.)。妙法寺 (1 ex., 26-VIII-1988),

藍那 (3 exs., 27-VII-1978 etc.)。三木市口吉川町 (1 ex., 14-VII-1986 etc.)。加西市法華山一乗寺 (1 ex., 23-V-1965)。加東郡社町三草 (1 ex., 22-V-1989 etc.)。竜野市神岡町 (2 exs., 19-V-1988)。宍粟郡波賀町音水 (1 ex., 20-VII-1959 etc.)。氷上郡 [山本, 1953]。出石郡出石町荒木 [高橋, 1963]。豊岡市長谷 [高橋, 1975]。養父郡関宮町氷ノ山 (1 ex., 25-VII-1955 etc.)

Genus *Liliocercis* Reitter, 1921 クビナガハムシ属

世界各地に広く分布しているグループで、日本には9種産することが知られており、兵庫県下には6種が分布している。

Subgenus *Bradyceris* Chûjô, 1951

26. *Liliocercis (Bradyceris) lewisi* (Jacoby, 1885)

レイスクビナガハムシ

原記載は日光産。古くから話題にのぼっていた種である。1931年には横山桐郎博士のカラー図説、さらに1937年には神谷一男博士のカラー図説が出て、その美しい姿で注目をあびた。その後、ほとんどの図鑑に出ているが、必ずしも個体数は多くない。辻啓介氏は、氷ノ山山頂で吹きあげられてきた本種10頭近くを採集し、それらを見せて下さったことがある。本種について筆者 (1995) は、全国的視野での報告を行った。

産地：神崎郡大河内町砥ノ峰 (1 ex., 2-VII-1977)。宍粟郡波賀町音水 [1 ex., 22-V-1965, K. Tsuji leg.]。城崎郡日高町阿瀬溪谷 [高橋, 1978]。養父郡関宮町氷ノ山 [岩本, 1936; 辻, 1972; 高橋, 1978; 上田, 1996], (1 ex., 11-VII-1972, K. Tsuji leg.)。関宮町氷ノ山越付近, 氷ノ山大平頭 [永幡, 1996]。美方郡温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 磯野, 1985]。温泉町扇ノ山小ツツコ [永幡, 1996]。村岡町小城, 本谷奥 [永幡, 1996]。

Subgenus *Liliocercis* Reitter, 1921

27. *Liliocercis (Liliocercis) balyi* Chûjô, 1962

ベアリークビナガハムシ

この種はBalyによって1873年, *Criocercis subpolita* var. Bとして“Hiogo”産で記録され、現在大英博物館 (自然史博物館) に所蔵されている1個体の標本によって記載されたものである。その後、兵庫県下での記録も知らなければ日本のどこからも記録が見られないもので、はたして真に兵庫県産であるのかどうかよくわからない種である。戦前、中條道夫博士から神戸

にこのようなハムシがいるかもしれないので探してくれと頼まれたが、残念ながら該当するようなハムシは現在まで見るができない。

産地：兵庫（神戸）[中條, 1962].

28. *Lilioceris (Lilioceris) merdigera* (Linnaeus, 1758)

ユリクビナガハムシ

一般に赤褐色、光沢があり美しい。兵庫県下の記録については、筆者（1990）が詳しく紹介したことがある。その後、県下の新しい産地が知られているが、今のところ限られた産地が知られているだけである。食草としてテッポウユリ、オニユリ、カノコユリなどが知られている。

産地：兵庫[大野, 1967]. 川西市見野字山形[森, 1991]. 神戸市押部谷[森, 1993]. 三木市本町, 口吉川町大島, 善祥寺[永幡, 1990], 大村[高橋, 1991]. 三田市藍本[森, 1991]. 多紀郡篠山町[高倉, 1961].

29. *Lilioceris (Lilioceris) parvicollis* (Baly, 1873)

ホソクビナガハムシ

上翅は赤褐色、前胸背板と頭部は銅褐色。体腹面は一般に赤褐色、小楯板は明瞭な剛毛を密生する。食草はサルトリイバラが知られている。

兵庫県下には広く分布している。ただ次種キイロクビナガハムシと比べて、個体数は少ないようである。産地：川西市原, 笹部[仲田, 1970, 1978, 1982]. 宝塚市売布が丘[水野, 1993]. 西宮市船坂(1 ex., 5-VI-1987). 神戸市六甲山(1 ex., 15-VII-1956), 谷上(1 ex., 3-V-1957), 金剛童子山(1 ex., 24-VI-1956), 北鈴蘭台(1 ex., 7-V-1982), 八多町屏風(4 exs., 6-V-1973), 摩耶(1 ex., 19-V-1978 etc.) 押部谷町木津(1 ex., 27-VII-1984), 伊川谷町(1 ex., 6-VII-1988). 三木市口吉川町(1 ex., 4-IX-1986). 小野市山田町(1 ex., 16-V-1987). 揖保郡新宮町福原(1 ex., 7-VII-1992). 相生市三濃山(1 ex., 3-V-1969 etc.). 多紀郡篠山町雨石山[林ほか, 1995]. 氷上郡[山本, 1953, 1958], 山南町(2 exs., 5-VII-1990). 出石郡但東町[高橋, 1963]. 城崎郡城崎町来日岳[上田, 1996]. 美方郡浜坂町宇都野神社, 観音山[磯野, 1985].

30. *Lilioceris (Lilioceris) rugata* (Baly, 1865)

キイロクビナガハムシ

前種に似るが、小楯板はほとんど剛毛を欠き、触角はやや幅広く、末端節近くでは幅は長さよりわずかに狭く、前胸背板は暗褐色、頭部・触角・体腹面・肢は

全体黒色、小楯板はほとんど暗褐色。食草はヤマノイモ、オニドコロが知られている。

兵庫県全域に産し、やや普通に得られる。

産地：津名郡五色町下堺[堀田, 1978]. 洲本市三熊山[Hiroichi etc., 1977]. 洲本市鮎屋[大野, 1969]. 三原郡諭鶴羽山[大野, 1969], 南淡町沼島[楠井, 1992]. 川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田, 1978]. 川西市西谷村[Kimoto et Hiura, 1964], 山原, 笹部[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市切畑字長尾山, 玉瀬[水野, 1993]. Hiogo[Baly, 1865]. 神戸市御影[関, 1938], 保久良山(3 exs., 1-V-1975 etc.), 柚谷[鳥居, 1961], 布引(1 ex., 17-V-1958), 鳥原(1 ex., 2-V-1943 etc.), 八多町屏風(2 exs., 12-V-1993 etc.), 藍那(1 ex., 20-V-1993 etc.), 谷上(1 ex., 29-IV-1938), 丹生山(1 ex., 5-V-1956), 高取山[鳥居, 1961], 逢山峡(1 ex., 11-VII-1987), 多井畑(1 ex., 23-V-1990). 美濃郡吉川町(1 ex., 27-VII-1985). 多紀郡篠山町雨石山[林ほか, 1995]. 氷上郡柏原(1 ex., 10-V-1953)[山本, 1953, 1958]. 神崎郡笠形山(1 ex., 12-VI-1966). 多可郡加美町三谷(2 exs., 24-VII-1975), 加美町白山(4 exs., 3-V-1973 etc.). 神崎郡大河内町川上(1 ex., 18-VI-1977). 揖保郡新宮町福原(2 exs., 15-VII-1992). 相生市三濃山(2 exs., 7-V-1972 etc.). 栗東郡波賀町音水(1 ex., 20-VII-1959 etc.), 波賀町坂ノ谷(1 ex., 9-VI-1972). 美方郡浜坂町味原, 宇都野神社, 城山, 観音山[磯野, 1985]. 養父郡八鹿町妙見山[上田, 1996].

31. *Lilioceris (Lilioceris) subpolita* (Motschulsky, 1860)

アカクビナガハムシ

体背面・腹面は一般に赤褐色、中・後胸側方部は黒色、腹部各節は1対の黒色部を装う。頭部、触角、肢は一般に黒色。体長7.0~10mmで、このグループの中では大きな種である。食草はサルトリイバラが知られている。日本全国に分布するが、海外からは知られていないようである。

兵庫県下にも広く分布している。氷ノ山や音水では一度に多くの個体を採集したことがあるが、他の場所では多数の個体を得られることは少ないように思われる。

産地：三原郡成相峠[大野, 1969], 諭鶴羽山[堀田, 1978]. 洲本市先山[堀田, 1976], 三熊山[Hiroichi, etc., 1977], 由良[堀田, 1978]. 川西市笹部[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市切畑, 検見[水野, 1993]. 神戸市御影[関, 1933], 保久良山(1 ex., 1-V-1975), 鳥原(1 ex., 8-V-1977 etc.), 藍那(1 ex., 14-VII-1978), 押部谷

町木見 (1 ex., 20-VII-1980), 逢山峽 (1 ex., 7-VII-1987), 伊川谷 (1 ex., 6-VII-1988), 石井ダム (1 ex., 18-X-1991). 氷上郡神楽村 (青垣町) [山本, 1953]. 飾磨郡夢前町雪彦山 (2 exs., 14-VII-1957). 揖保郡新宮町福原 (1 ex., 7-VII-1992 etc.). 栗栗郡波賀町音水 (7 exs., 13-VII-1958 etc.), 波賀町坂ノ谷 (4 exs., 9-VI-1973). 出石郡但東町平田 [高橋, 1965]. 城崎郡日高町三川山 [上田, 1996]. 養父郡関宮町氷ノ山 (11 exs., 27-VII-1956 etc.) [木元, 1964; 上田, 1996]. 美方郡浜坂町味原, 宇都野神社, 観音山 [磯野, 1985], 温泉町扇ノ山 [高橋, 1975].

Genus *Crioceris* Muller, 1764

アスパラガスハムシ属

この属のハムシは日本に2種産し, 兵庫県下からも2種が知られている.

32. *Crioceris orientalis* Jacoby, 1885

カタボシクビナガハムシ

体背面は一般に赤褐色, 上翅の黒紋は変異が多い. 食草はクサスギカズラが知られている. 兵庫県下では宝塚市内での記録があるのみで, 調査が不十分ようである.

産地: 宝塚市宝梅川一丁目 [小田中, 1994].

33. *Crioceris quatuordecimpunctatata* (Scopoli, 1763)

ジュウシホシクビナガハムシ

アスパラガスの害虫として知られている. 県下でもアスパラガスを栽培している地には産すると考えられるが, 記録は少ない (産地では多数の個体が得られているようである). この種も県下の分布を再調査する必要がある.

産地: 城崎郡竹野町和田 [本庄, 1990]. 美方郡浜坂町城山 [磯野, 1985].

参考文献は, 今後の報告におけるものと重複しているものが非常に多いので, 最後に一括して掲載する予定である.

マルエンマコガネを高砂市で採集

岩見 裕介

ぼくは, 1994年10月23日, 高砂市でマルエンマコガネ *Onthophagus viduus* を採集しました. マルエンマコガネは, あまり多い虫ではないと聞いたので, 報告します.

1 ♀, 兵庫県高砂市北浜町北脇, 岩見裕介採集・谷角素彦保管

小学校の帰り, アスファルトの道路のすみで見つけました. 最初, 動かなかったので死んでいるかと思いましたが, 触てみると動き出しました. この虫を採った場所の近くにフンは見当らず, 少しはなれたところに犬のフンがありました. 当日は, 小雨が降っていました.

この虫は, 自宅のまわりの猫のフンでも見られます.

クロコノマチョウを高砂市で採集

岩見 裕介

ぼくは, 1996年4月24日, 高砂市でクロコノマチョウ *Melanitis phedima* を採集したので, 報告します.

1 ♀, 兵庫県高砂市北浜町北脇, 1996-IV-24, 岩見裕介採集

小学校に行こうとしていた午前7時40分ごろ, 人家の近くにある田んぼの枯れた稲にとまっているところを見つけ, 手でつまんで採集しました.

採集したチョウを図鑑で調べたら, クロコノマチョウの秋型の♀とされているものに似ていました.

参考文献

川副昭人・若林守男 (1976) 原色日本蝶類図鑑, 保育社, 大阪.